

統・学びの実感

割合の表し方を考えよう

◇今年度、高学年部授業の先陣を切った典昭先生の授業でした。

授業の導入から、学年部のチームワークのよさを感じさせる盛り上げ上手な雰囲気作り！見事でした。子供たちも、見ている大人も楽しい気持ちになりました。また、全体発表で指名された児童を笑顔で励ますなどのチームワークもすばらしかったですね。

ほかに、自力解決に入る前に、大切な全体の量、コーヒーと牛乳の割合、解決するための考え方を板書したことは、子供たちにとってとてもよい思考の助けになったと感じました。



◆事前検討会から…

※研究主任が高学年部の事前検討会に、時間を合わせることができず参加できませんでしたが、以下のような話をしたことを聞きました。「子供の実態に対応して変更した」指導案であったことが分かりました。

- 比の割合の数字は、本当は「5 : 3」だったのですが、子供たちが分かりやすく、取り組みやすい「6 : 4」にした。たして「10」にすると考えやすいというところから。
- 教科書では「ミルクティー」だったのですが、「コーヒー牛乳の方が身近であろう」と考えました。



◆事後検討会から…

《自評》

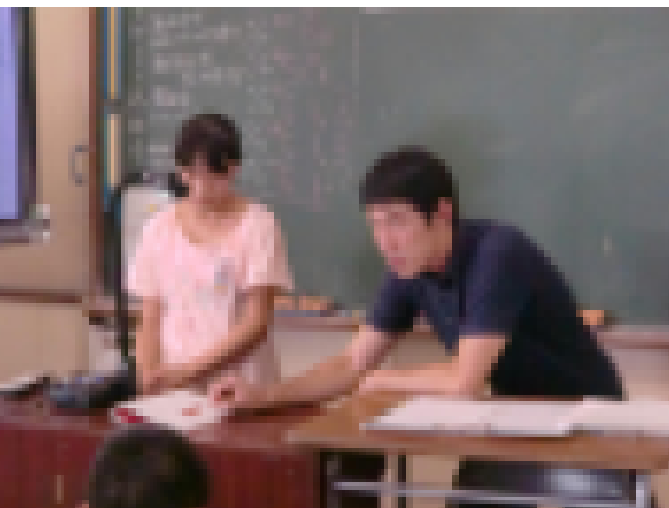
◎佐藤先生…

- 導入段階での子供たちの反応はとてもよかったと思う。
- 比の学習について。比というものを子供たちがどのように利用できるようになるかを考えるのが大変でした。
- 授業の中で「比」の押さえ方が不十分だったように思いました。

《事後検討会から》

- 導入部分の食いつきがよかった。(割合の違いを考える問題だと理解することができたように思う)
- 今回の問題で $1200 \div 10$ の考え方が出るのは当然だと思うが、 $6 / 10$ につなげていくことが難しい。
- 前時の小麦粉と砂糖で、比は出にくかった。
- 「比」の有効性が子供たちに浸透(理解)していないところが難しかった。

- 自力解決の時間の有効利用が難しかった。子供たちは待ち時間がただ長かったように感じました。時間途中で、数名ピックアップして発表させる方法もあったかも…。
- 友達の解き方をまねて適応問題を解き、その方法を理解する。
- 小数で表すことができないものは、分数で表すなどの、考えたかの広がりが必要だと思いました。
- 「6 : 4」だと10にしやすい比としての考え方が出にくかったのかもしれない。かえて「5 : 3」のままの方が「比」の考え方が使えたと、出てきたかもしれませんね。
- 知識は大切です。自力解決も大切です。でも、丸投げになるような授業はどうでしょうか。大切なところは教え、考えるところは考えるバランスのとれた授業が今後大切になると思います。
- さまざまな方法で解くことも大切だが、比から考える点ではどうだったのでしょうか。



- 自力解決に取り組むと適応問題まで行かない場合があります。今回は最後まで行っていたのでよかったと思います。
- 最後の問題を、教科書にもどって取り組んでみてもよかったかもしれません。
- 今、考えれば「5 : 3」でもよかったかもしれませんが、子供の実態から考えるとやはり今回の方法がベストだったのでは。
- 自力解決の仕方、難しさ、ヒントの与え方など、困っている児童のための場の設定等を工夫しては。
- 自力解決の際に、1名をピックアップして発表させ、それを子供たちに返し、再試行させる方法もあるかもしれませんね。

◆課題のリレー

(有効…○ 課題…●)

- 児童が分かりやすいように具体物を示す。
- 子供たち取り組みやすい『数値』を設定する。
- 自力解決の助けとなるための時間配分、支援のあり方、効果的な板書のあり方、具体物の示し方をしっかり考えること。

次回の研究授業は…

9月	1年1・2組	(渡邊・庄子学級)	「たし算とひき算の筆算」
	2年 2組	(川村学級)	「かけ算の仕方を考えよう」
	5年 2組	(三浦学級)	「単位量あたりの大きさ」
	6年 少人数	(砂埜先生)	「拡大図と縮図」
	なかよし組	(庄子学級)	「未定」

できる範囲で話し合いや授業を参観しましょう。

低学年・中学年・高学年

成 果	
課 題	

育てたい力

--